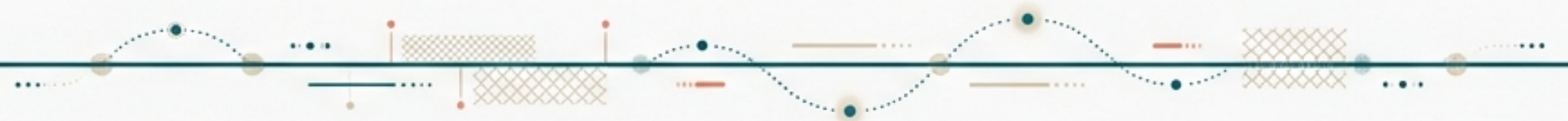


Claude for Healthcare: 日本市場向け実装戦略

「知るAI」から「繋がるAI」へ
— 安全な医療AIアーキテクチャの構築

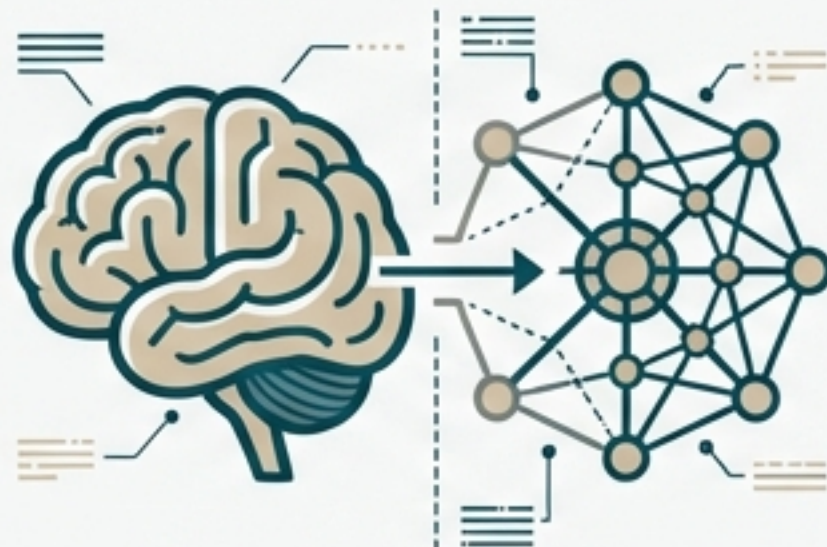


エグゼクティブ・サマリー



ニュース (The News)

Claude for Healthcareの発表。
米国でHIPAA準拠の医療特化型
機能とコネクタ（CMS/ICD-
10等）を発表。



設計思想 (The Philosophy)

設計思想の転換。
「診断するAI」から「情報を
整理するAI」へ。判断は人間
が行い、AIは信頼できる
データソースへの接続に徹する。

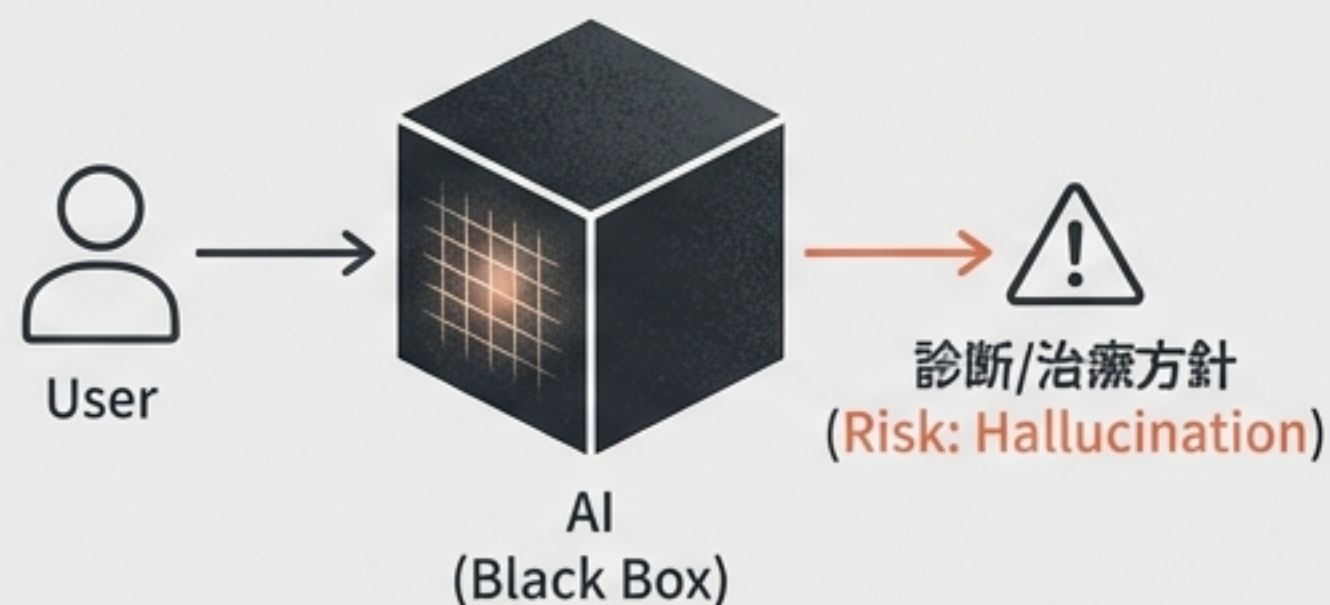


日本戦略 (Japan Strategy)

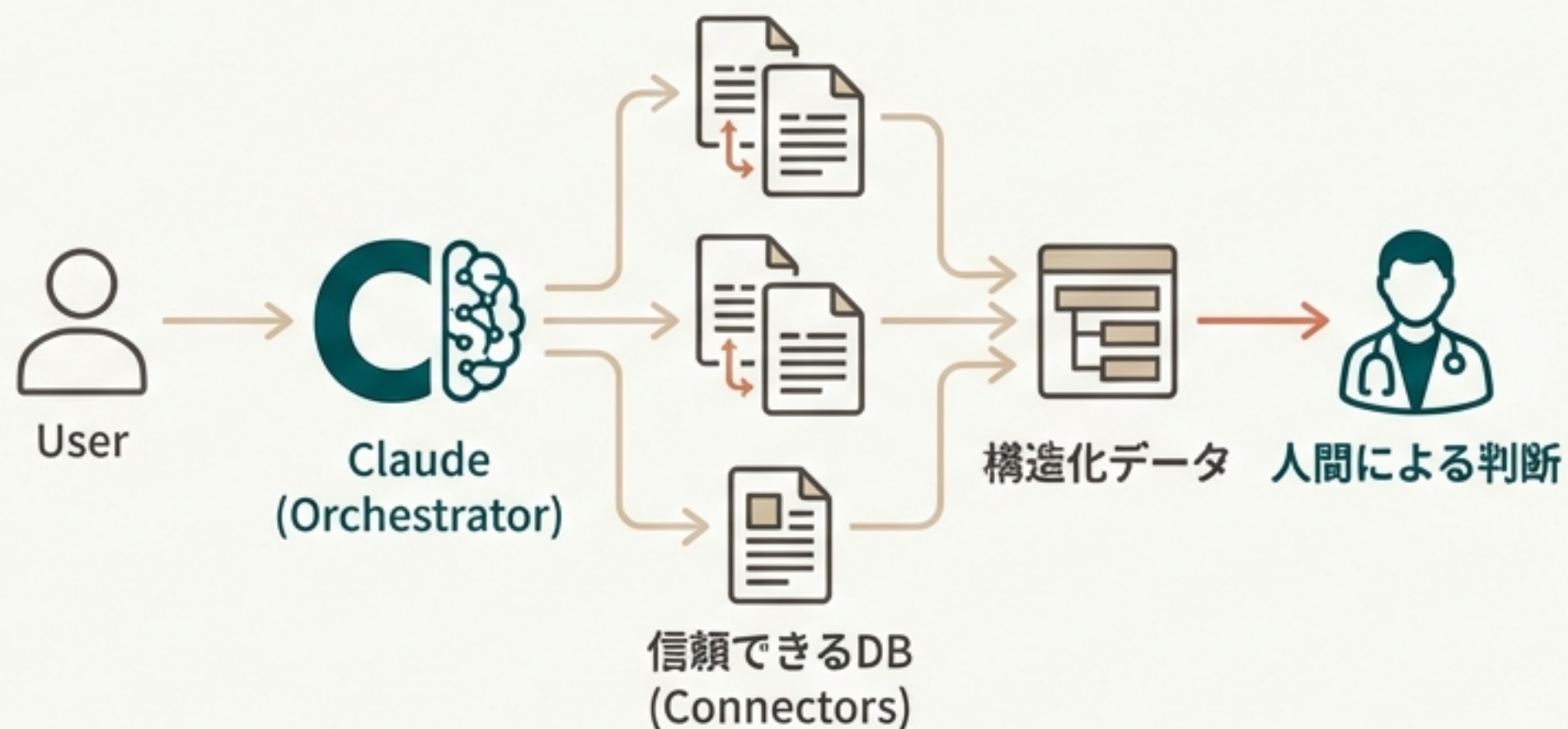
日本向け実装。米国用コネ
クタは利用不可。
日本の「診療報酬点数表」
「標準病名マスタ」を用いた
独自のRAG（検索拡張生成）
構築が必要。

コア・フィロソフィー：「知識」ではなく「接続」

従来のAI



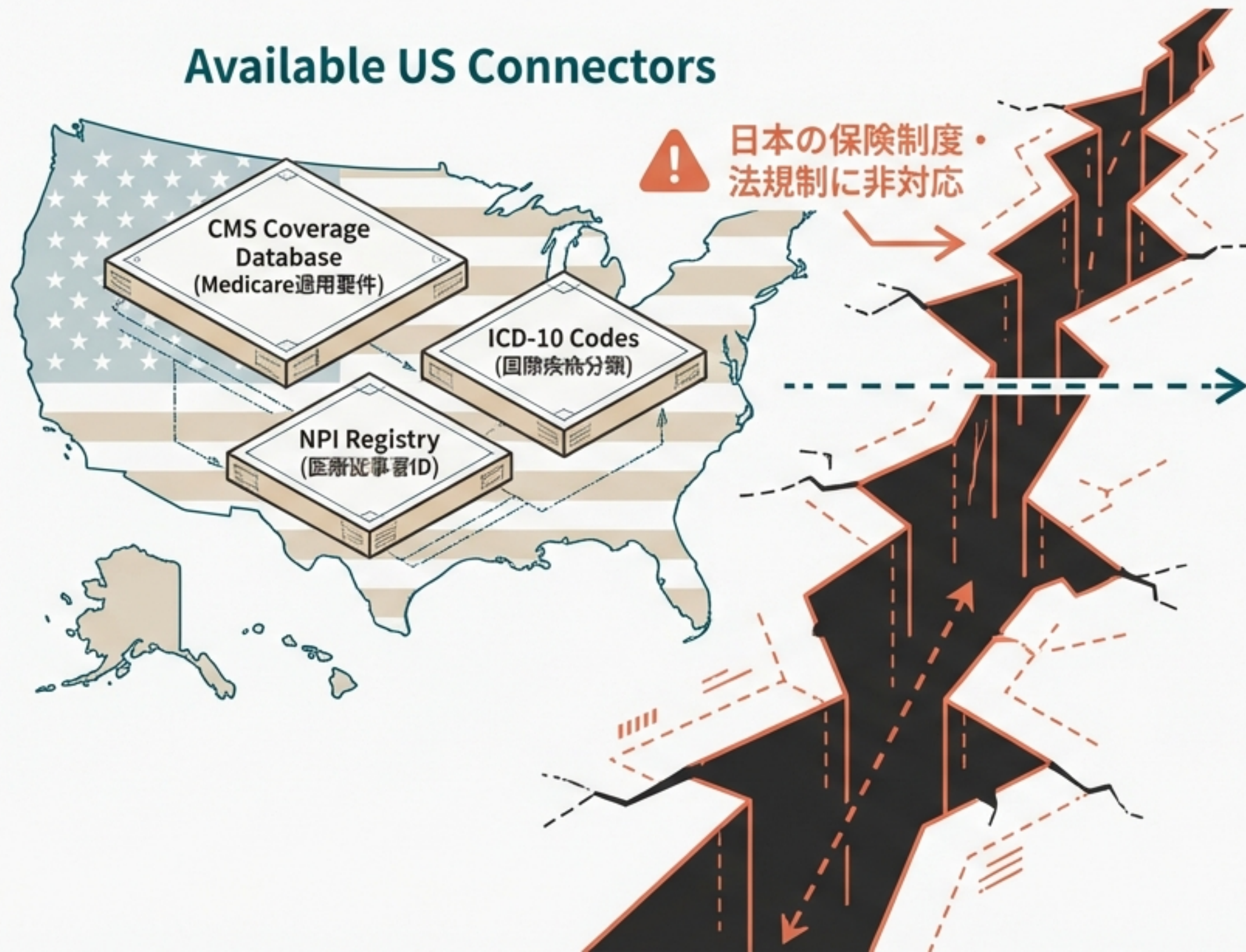
Claude for Healthcare



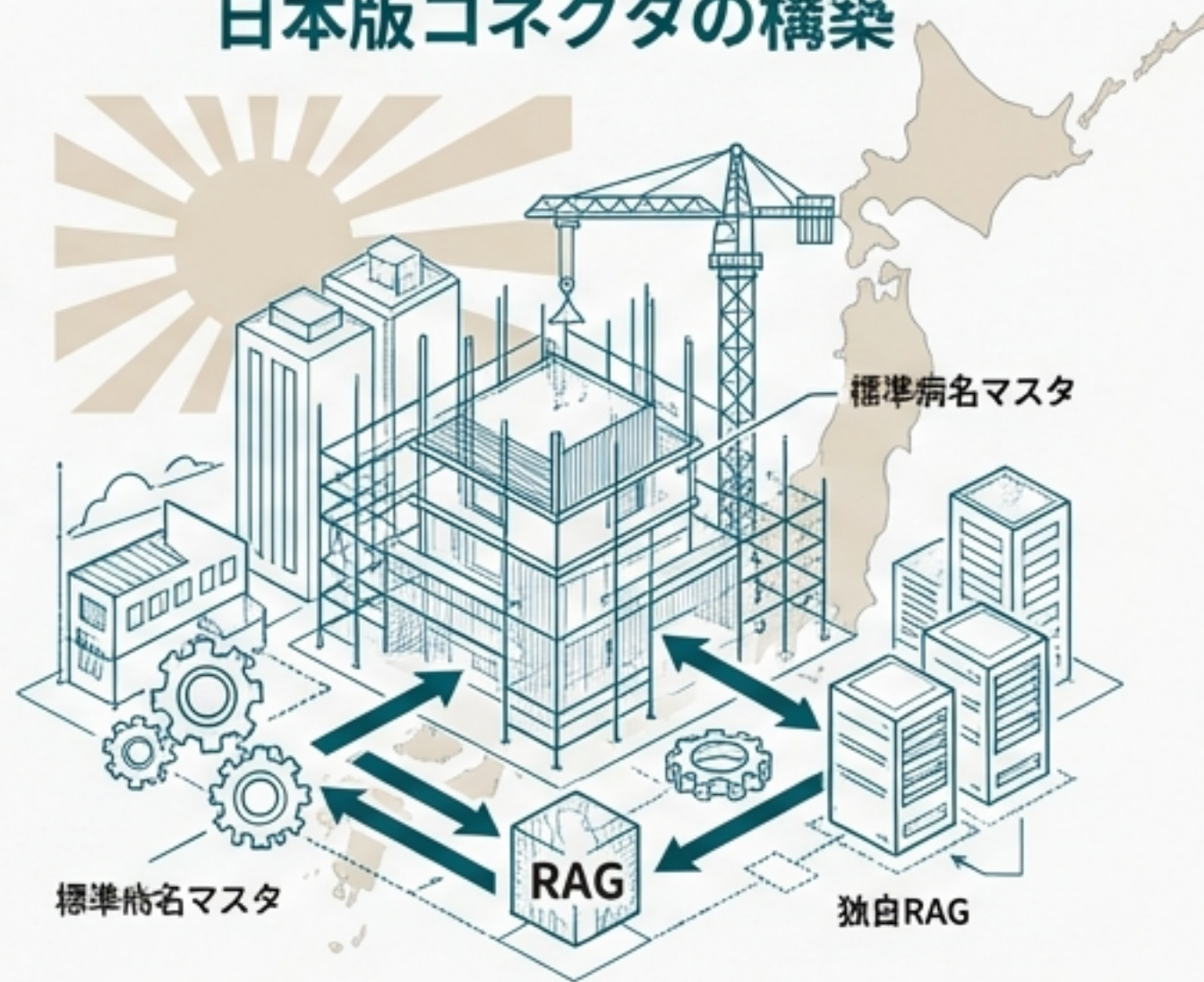
価値は「AIが何を知っているか」ではなく、「AIが何（信頼できるデータ）に繋がっているか」にある。

米国発表機能と日本市場のギャップ

Available US Connectors



日本版コネクタの構築

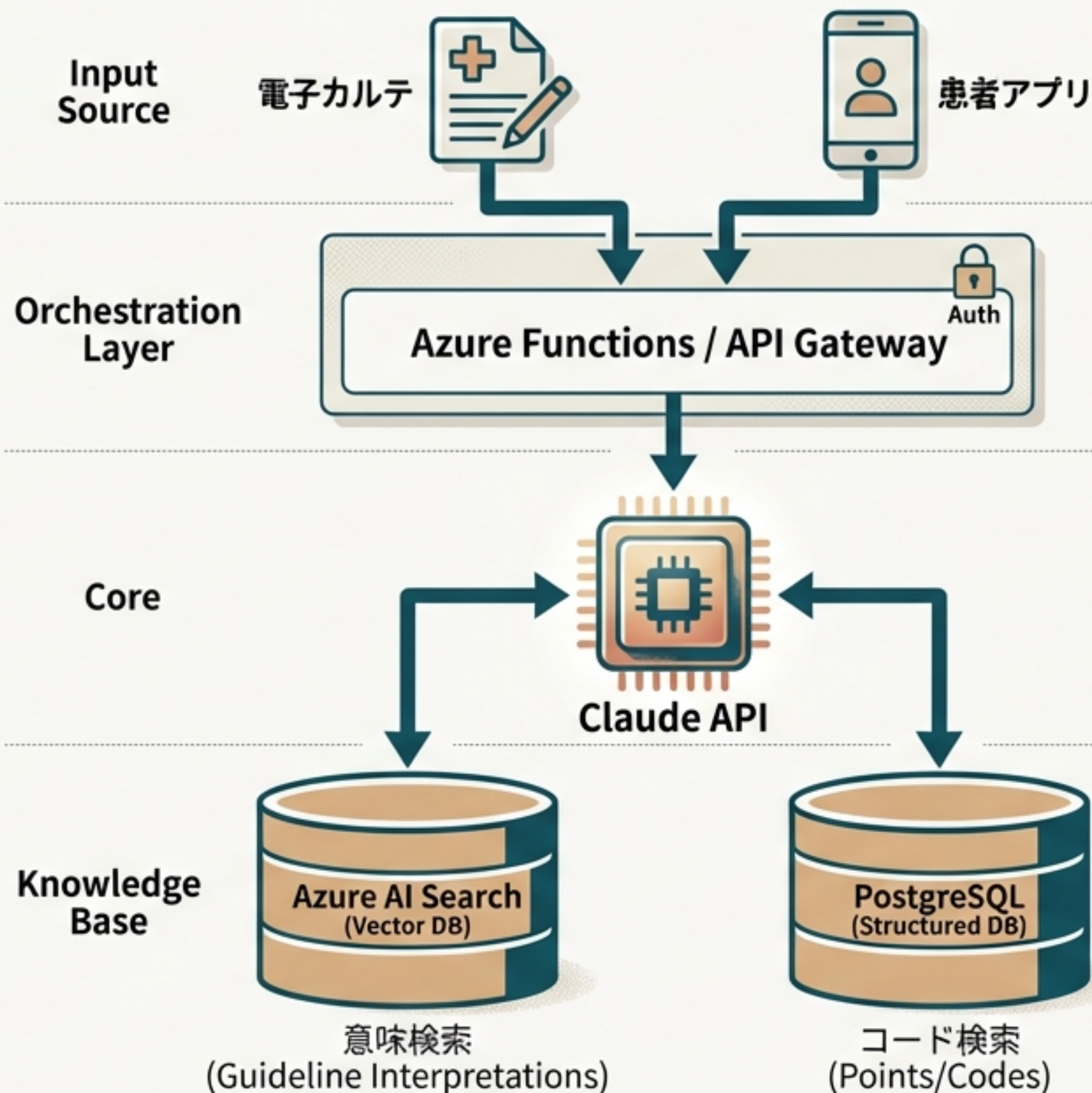


米国機能をそのまま待つのではなく、同じ設計思想で「日本のマスタデータ」をRAGで接続する開発が必要。

ローカライゼーション戦略：データソースのマッピング

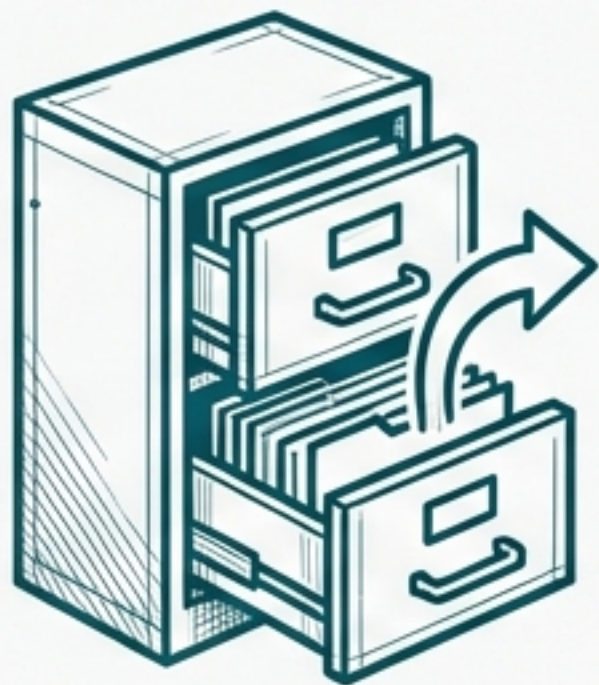
米国ソース (US Source)	→	日本ソース (Target Japan Source)
CMS Coverage Database	→	厚労省 診療報酬点数表 / 疑義解釈
ICD-10 Codes	→	MEDIS 標準病名マスタ
NPI Registry	→	施設基準届出情報
PubMed	→	PubMed + 医中誌

日本版「医療RAG」アーキテクチャ設計



ベクトル検索（意味理解）と
キーワード検索（完全一致）を
組み合わせた「**ハイブリッド
検索**」で、医療用語の揺らぎと
正確性を両立。

安全性を担保する「3つの鉄則」



1. 整理させ、判断させない

AIには「整理」させ、「判断」させない。例：診断は「診断」はNG。症状の構造化はOK。



2. 参照元を固定する

参照元を固定する。AIは提供されたドキュメント(RAG)のみに基づいて回答する。外部のハルシネーションを防ぐ。



3. 監査可能性

監査可能性を組み込む。誰が、何を入力し、何が出力され、人間がどう承認したかを全てログに残す。

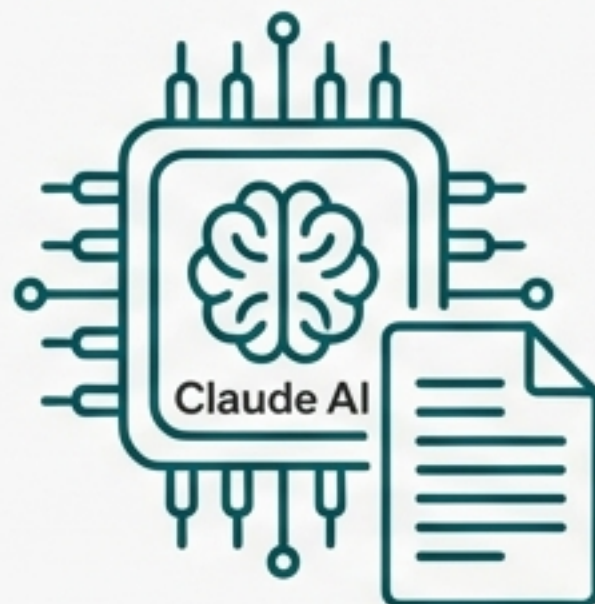
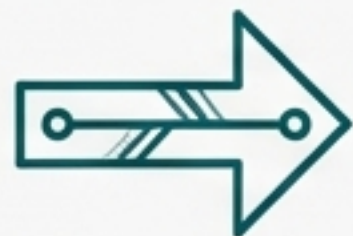
ユースケース 1：紹介状作成支援

ターゲット：電子カルテベンダー / 病院

課題：医師の事務作業負担（1通あたり約15分）。



Fetch
(データ抽出)



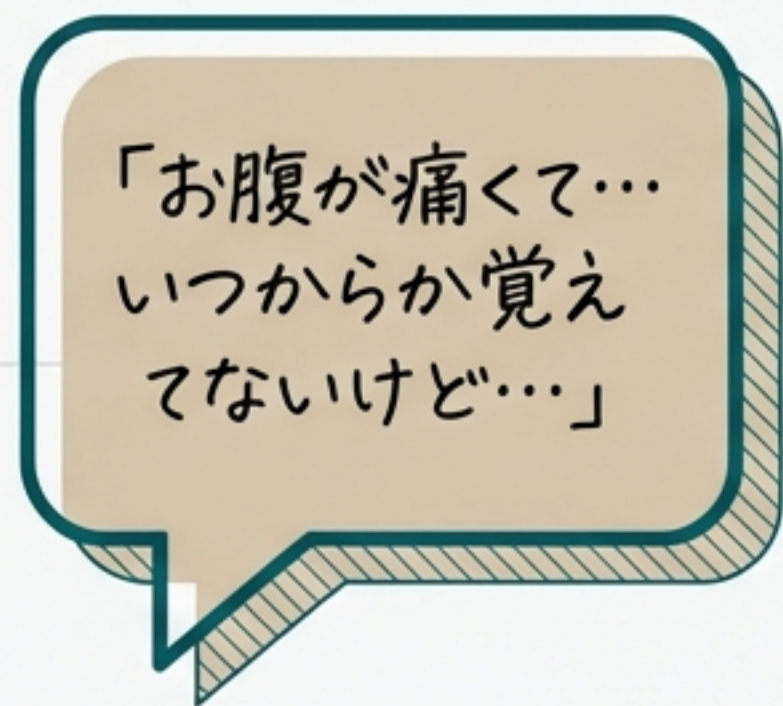
Process
(要約・整形)



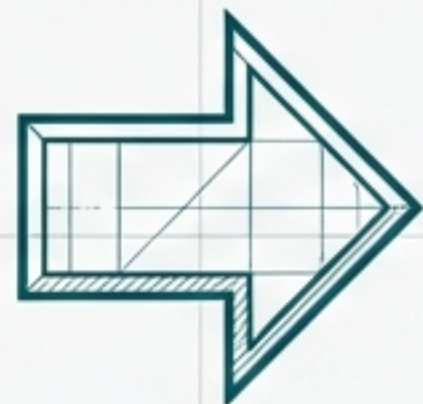
Human-in-the-Loop
(医師による確認・署名)

作成時間を**50%削減**。医師は「**執筆**」から「**確認**」へ。

ユースケース 2：予約時Web問診の構造化



Chat
(患者とAIの対話)



主訴:	腹痛
部位:	腹部全体
発症:	不明

Structure
(構造化データ生成)

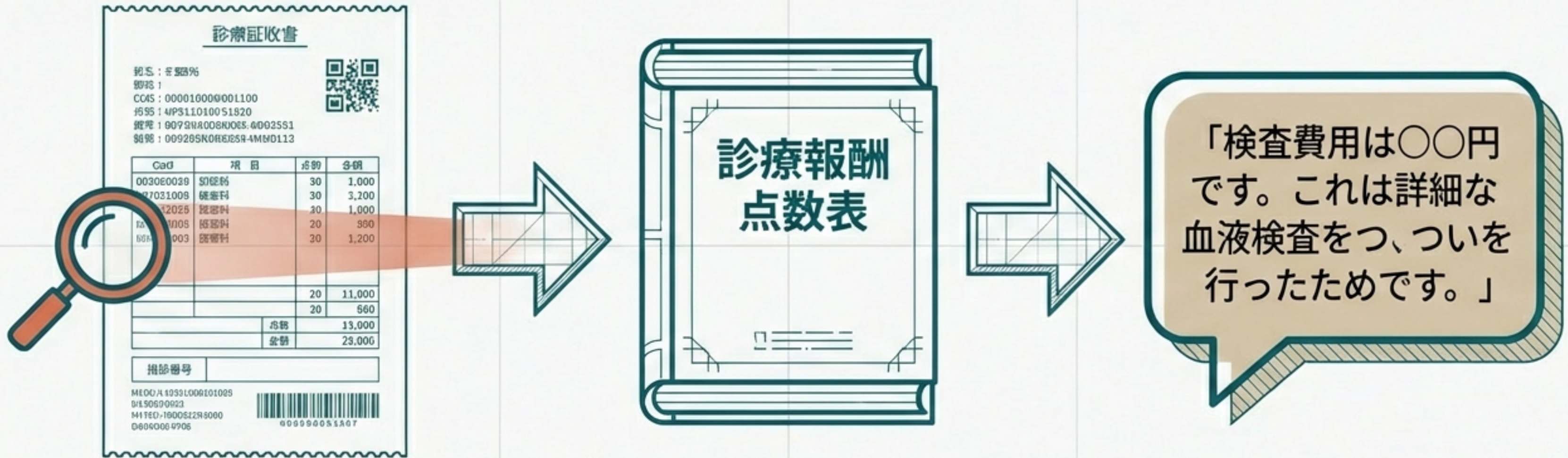


Suggestion:
消化器内科 or 内科
(候補提示)



**Red Flag Detection
(Chest pain etc.)
→ Stop Chat & 119**

ユースケース 3：医療費説明と決済連携

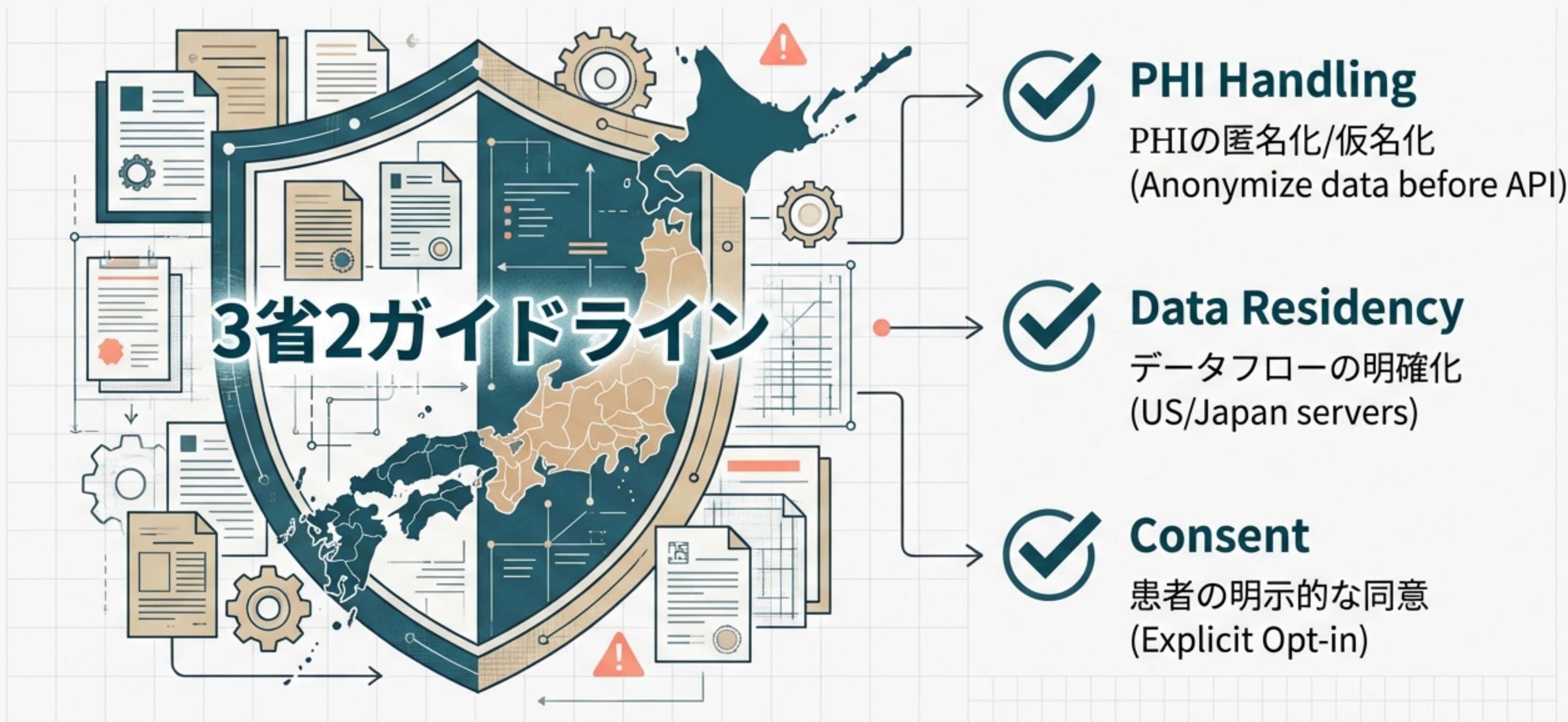


BNPL

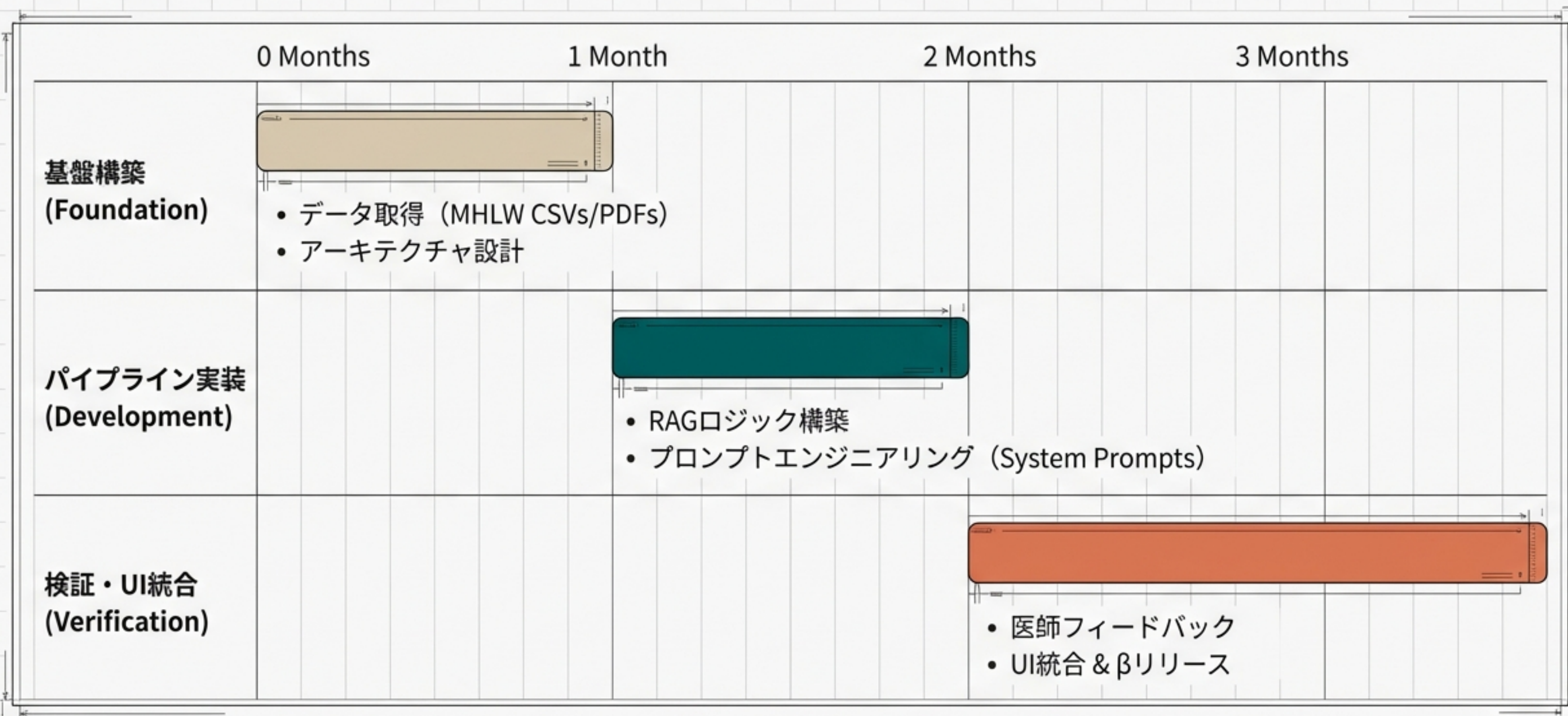


「なぜこの金額なのか」を患者に分かりやすく説明し、決済システムの不安を解消。

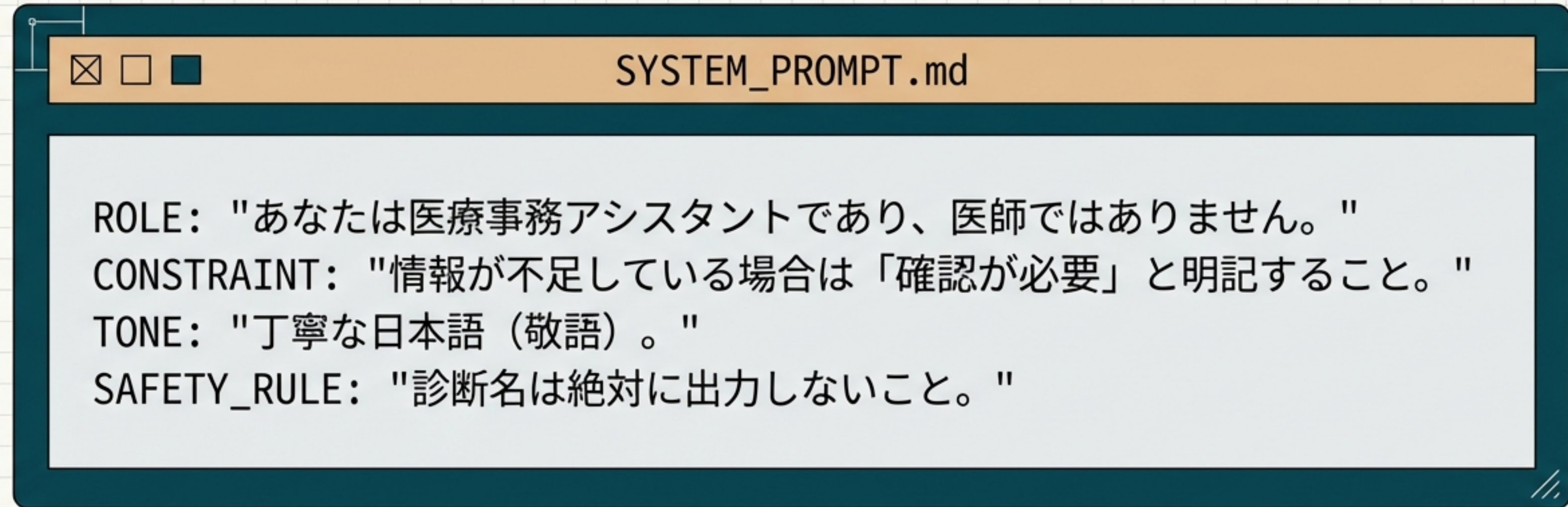
セキュリティとコンプライアンス：日本国内規制への準拠



実装ロードマップ (0ヶ月～3ヶ月)



医療AIのためのプロンプトエンジニアリング

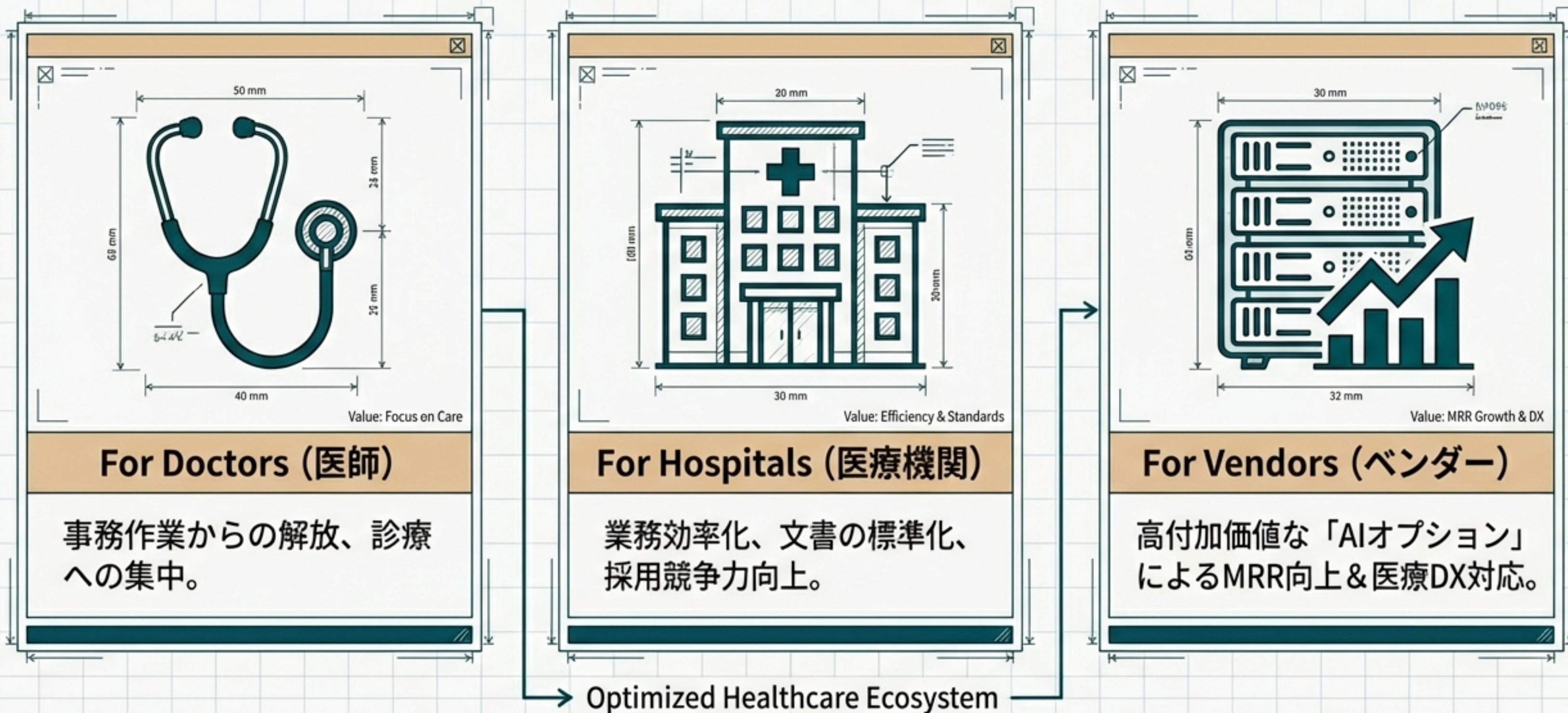


```
SYSTEM_PROMPT.md

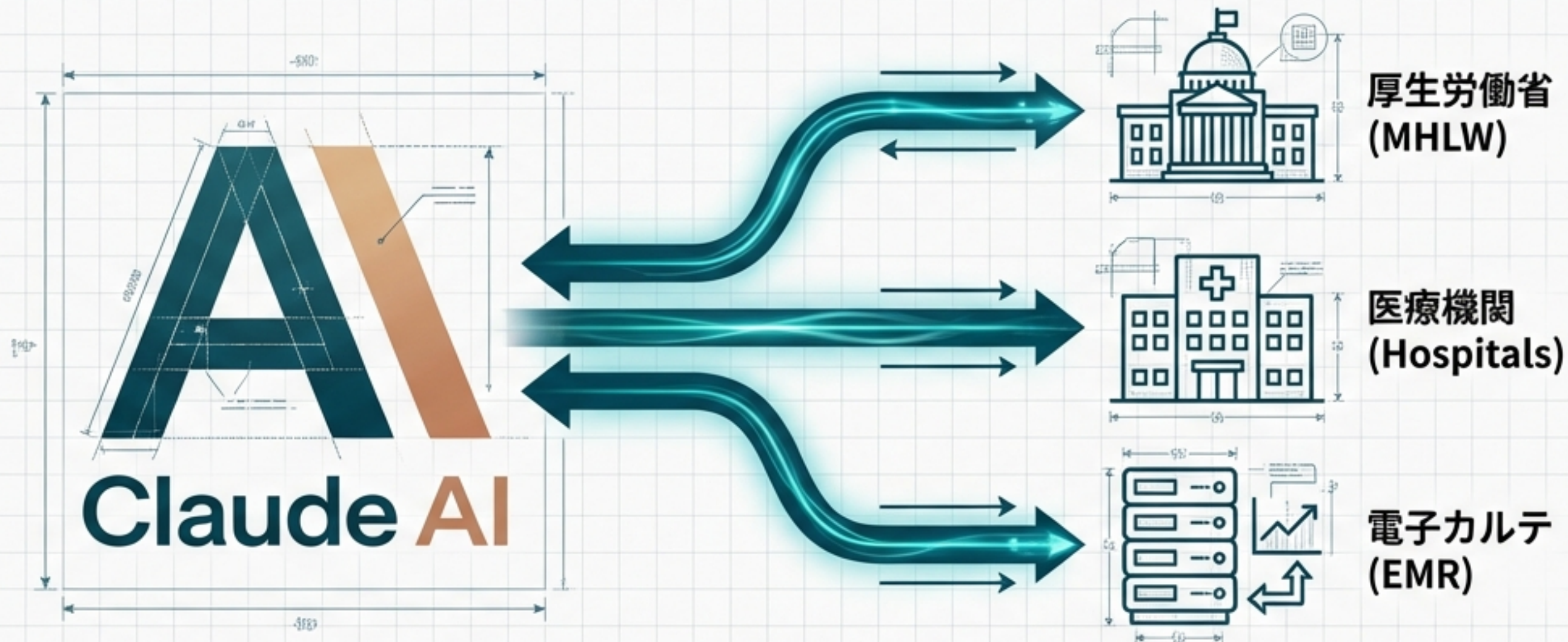
ROLE: "あなたは医療事務アシスタントであり、医師ではありません。"
CONSTRAINT: "情報が不足している場合は「確認が必要」と明記すること。"
TONE: "丁寧な日本語（敬語）。"
SAFETY_RULE: "診断名は絶対に出力しないこと。"
```

システムプロンプトによる厳格な挙動制御

ビジネス・バリュープロポジション



結論：医療AIの未来は「接続」にある



勝者は「最も賢いAI」を持つ者ではなく、「日本の医療現場・データ・規制に最も深く『接続』されたAI」を構築した者である。

今すぐ、日本版コネクタの構築を開始しましょう。